

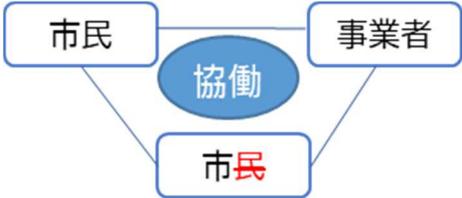
郡山市環境審議会からの意見に対する回答

委員名	意見	回答
難波謙二会長	<ul style="list-style-type: none"> ・第三次の構成を活かした、全体の構成良いと思います。取り組みの柱の整理も賛成です。個々の取り組み項目には意欲的な新規項目が含まれている一方、着実に実施すべき内容も含まれていると思います ・将来の環境都市像の記述4について意見です。第3次の「健康で安全して暮らせる・・・」が4次の案では「安心・安全に暮らせる・・・」となっています。健康や安全と比べると、安心は主観的です。しかし、「住んでよかったなと思えるまち」を実現するためには「安心」は重要な点と思います。省庁では「安心・安全」も「安全・安心」も両方の順番が使われているようです。どちらかを選ぶなら、「安全・安心」だと思います。客観的な安全性があった上での安心であり、安全性を発信する側が受け手に信頼されることが、受け手の安心につながるということを考えると、この順番が妥当と思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘のとおり、次期計画の取り組みの柱4については、「きれいな水や空気が守られ安全・安心に暮らせるまちづくり」といたします。
伊藤耕祐副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 右下 進行管理体制について（質問）PDCA サイクルの「C（チェック）」は、いつ、誰がやるのでしょうか。これまでの事例も教えてください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務事業については、行政評価等を通じて毎年実施するとともに、計画全体については、前年度の施策の実施状況等を取りまとめた「郡山市の環境」を作成し、環境審議会の審議を経たうえで公表しております。

<ul style="list-style-type: none"> • 資料2について（コメント） 項目で整理され、わかりやすくまとめられていると思います。これまでは、末端の具体的な施策毎に「指標」が決められていたと思いますが、状況の変化に応じた施策や目標値の軌道修正が難しい側面があったと思います。→そこで、第四次計画では、中項目（＝取り組みの項目）毎に4年後の達成目標を定め、各施策の内容と目標は年度毎に見直すようにしてはどうかと思います。 （具体的には今後の審議会で議論する予定と理解しています。） • 資料3及び資料4左下「2次期計画のポイント」について（質問とコメント） 図が「計画のポイント」や計画案の内容と整合していないような印象を受けます。 「気候変動対策」とあるのは、「取り組みの柱」の1番目を重視するという主旨と理解できます。一方で「ゴミ減量化対策」は、「気候変動対策」と同等お位置づけでしょうか？ 「取り組みの柱2」の表現を借りて「循環型社会（の構築？）」とした方が良いのではないのでしょうか？ 「新しい生活様式への適応」に対応する施策が見当たらず。何のことを指しているのでしょうか？ 	<ul style="list-style-type: none"> • 活動指標だけでなく、目標指標の設定についても検討してまいります。 • ご指摘のとおり、ごみ減量化対策を含めた「循環型社会の構築」をポイントとしてまいります。 • 「新しい生活用域への適応」と「DX型環境施策」の具体的な環境基本計画での盛り込み方は、引き続き検討してまいります。
--	--

	<p>「DX型環境施策」として何を推進する計画でしょうか？</p> <p>→まず、審議会の書面評決書をデジタル化してはどうかと思います。(条例の改正が必要ならば議会に要望してください。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・審議会の書面決議については、メールでの回答でも可能なよう要綱改正も含めて検討してまいります。
<p>會田久仁子委員</p>	<p>計画の目標3、将来の環境都市像の2、資源が循環する持続可能なまちづくり。施策の展開、取り組みの柱2、循環型社会にあるごみの問題については、切実な身近な問題としてとらえています。</p> <p>郡山はごみの排出量がとても多いと聞いています。東日本大震災以降は高い水準で推移とのこと。食品ロスも大きく関わっていることと思います。燃やしてよりごみの量がぐんと多くなっており、将来の郡山のために、ぜひ大きな成果があがる取組みとなるよう期待しています。</p>	<p>(回答不要)</p>
<p>大場真委員</p>	<p>1. (生物多様性について)</p> <p>「環境都市像(案)」に「自然豊か」という言葉が入っていますが、直接的には生物多様性に関係すると思います。しかし施策体系3-1としては外来種対策、獣害対策は目立ちますが、具体的に生物種保全どのような施策をお考えでしょうか。施策3-2における緑地の保全、環境配慮型農業、森林の適切な管理(人工林の間伐促進、天然林化)による棲息地保全について、これは生物も含めた保全状況をモニタリングする必要があると考えられます。KPIはどのようにお考えでしょうか。</p> <p>2. (農林施策との関係)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生物種の保全については、生物多様性に関する普及・啓発等が考えられますが、ご指摘のとおり、施策3-2における森林や農地、緑地の保全も取り組みとしては重複する部分もあるかと存じます。なお、指標については検討を進めてまいります。 ・計画策定にあたっては、関係部局長を委員とした計画

	<p>環境は様々なセクターと関連しますが、特に気候変動緩和策(吸収源)、適応策(高温対策)を含め、食品ロス削減、Eco-DRRなどは農業セクターと深いつながりがあると考えます。現在貴市では「食と農の基本計画」も策定中であり、委員はこの懇談会にも出席しています。環境に関連する全ての課と意見交換することは難しいと考えますが、同じようなことを同時期に検討するのであれば、より効果的な施策を両課で検討する機会を設けてはいかがでしょうか。</p> <p>具体的には森林吸収源の見直し(間伐の促進、獣害対策のためのゾーニング、生物多様性の保全、土砂災害防止、環境教育の場としての利用)、食品ロスを防ぐ取り組み(廃棄物削減、環境意識の向上、地産地消・環境負荷の低い食品の利用)等があると思います。</p> <p>3. (適応策)</p> <p>昨年度弊所も支援させていただいた適応策に関するグループワークとそれを反映した「気候変動対策総合戦略」との関連性を明確にして実際の計画を策定いただければと思います。弊所として必要な支援を追加して行うことが出来ます。</p>	<p>策定検討委員会を設置し、委員会の下に関係所属長による幹事会も設置しており、農林部や廃棄物を担当する3R推進課はもちろん、食育を担当する保健、教育部局とも情報共有、意見交換をしながら計画を策定してまいります。</p> <p>・気候変動対策分野である取り組みの柱1「気候変動に対応するレジリエンスなまちづくり」を実現する個別計画が「気候変動対策総合戦略」という位置づけです。</p>
<p>栢場龍子委員</p>	<p>・将来の環境都市像の中で、5. 環境を思いやる人がたくさんいるまち（これが基本かと思えます。全てに繋がるかと思えます。）</p> <p>→環境行動～環境教育・環境学習を是非（地道にコツコツ）お願いします。</p>	<p>・取り組みの項目「環境教育・環境学習の推進」において、施策を展開していきたいと存じます。</p>

高橋敦司委員	現在の環境に関する情勢がしっかり盛り込まれており、評価できる内容だと思います。	(回答不要)
滝田良子委員	<ul style="list-style-type: none"> 第4章施策の展開3 自然環境「生物多様性の保全」と「自然環境の保全と活用」の部分の見直しがされ賛同いたします。 5 環境行動環境意識の啓発は市民等にわかり易い周知を希望します。 	<ul style="list-style-type: none"> 施策の実施については、効果的な周知となるよう努めてまいります。
出村さやか委員	<ul style="list-style-type: none"> 取組の柱1の「レジリエンス」について、平易な表現におきかえるか注釈をつけた方が良いと感じた。理由は市民のだれが見てもただちに理解できた方が良いと感じたため。 資料1の第1章の5の図について、市民が2つあります。片方は市ではないでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 脚注等に用語説明を記載してまいります。 図の表記に誤りがありました。正しくは下図のとおりです。 
橋本健委員	<ul style="list-style-type: none"> 将来の環境都市にあるように「環境にやさしく自然豊かな、住んでよかったなと思えるまち」の基本理念に基づき、全市民のためのものと考え役割分担を明確にし、活動することが大切だと考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画では市民、事業者、行政の役割を明確にしてまいります。
古谷博秀委員	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な構成等については、骨子案の形でいいと思います。一方、計画の多くの部分を、郡山市気候変動対策総合戦略に基づくことになっていると思いますが、郡山市気候変動対策総合戦略については、2030年の目標値が国の目標で二酸化炭素排出 26%削減をベースに作られており、現在の国の目標 46%に対してどのように設定するの 	<ul style="list-style-type: none"> 2030年の二酸化炭素排出削減目標値については、今年度中に改定予定である、国の地球温暖化対策計画の内容等を踏まえ、郡山市気候変動総合戦略の中で議論してまいります。

	<p>か、このままとするとしても何らかの議論が必要に思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> • また、二酸化炭素の吸収源については、森林の管理が重要と思いますが、これについては自治体でも実際にできることがあるように思いますので、しっかりした計画があるといいように思います。 	<ul style="list-style-type: none"> • 二酸化炭素の吸収源については、郡山市森林整備計画や郡山市緑の基本計画等を踏まえ、森林や緑地等の保全について施策を展開してまいります。
三浦吉則委員	<ul style="list-style-type: none"> • 見慣れない新しい用語がある。(資料1、2) e x) レジリエンス、Eco-DRR いろいろ環境政策の中では使用されているか、一般的には普及していない用語。レジリエンスなどは今後、一般化すると思います。 • 資料4 2次期計画のポイント中の図が分かりづらい 「SDG s の達成」→「SDG s の達成に向けて」or「パリ協定の運用開始や SDG s の実施」 • 新しい生活様式とDXが並列されていますから、ここでは新型コロナに対応した新しい生活様式が主体になると思われるので「DX型環境施策の推進による新しい生活様式(ニューノーマル)」してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> • 脚注等に用語説明を記載してまいります。 • 素案等の作成においては、分かりやすい表現を心がけてまいります。
湯浅大郎委員	<ul style="list-style-type: none"> • SDG s やパリ協定の達成に向け各地で環境問題への取り組みが進められる中では、第4章に揚げられた具体的施策の内容に新味や独自性が乏しく、総花的な印象を受けます。2022~2025年度の4年間で郡山市が「ここが最重点施策。徹底的にやる」と考える部分はどこなのか、読者に本気度が伝わってくる計画書にできないものでしょうか。たとえば、「再生可能エネルギー利用」の拡大と、 	<ul style="list-style-type: none"> • 具体的施策については、現行計画にはない新たな施策についても検討を進めてまいります。 • 本市として特に力を入れていく分野を「重点項目」として設定することも検討してまいります。

	<p>料によって「取組み」、「取り組み」、「取組」が混在している)、一部に脱字のあること(「資料3」8ページ 郡山市環境基本理念で定める基本理念 第3条・・・並びに、_来の世代へ継承・・・)の修正が必要です。</p>	<p>たします。また、誤字・脱字等ないように作成いたします。</p>
--	--	------------------------------------

○今後のスケジュール

- ・ 9月中頃には施策案と指標案の審議
- ・ 10月上旬には素案の審議

日程	8月	9月	10月	11月	12月
審議会	 <p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 骨子案に対する意見とりまとめ 	 <p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施策案 ・ 指標案 	 <p>第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 素案 	 <p>第4回</p> <p>※策定状況を考慮しながら実施</p>	